

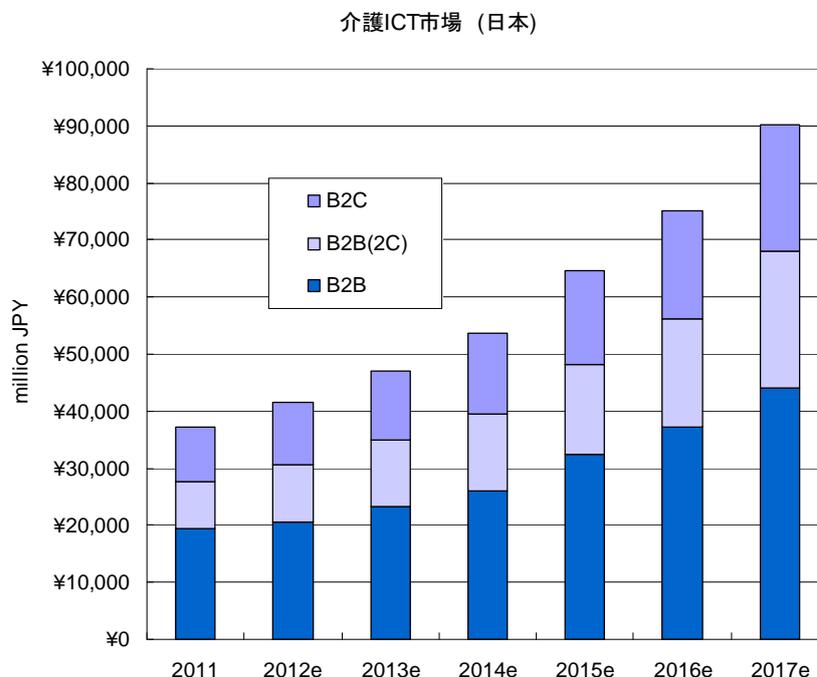
TSR - Press Release

在宅医療・介護支援ソリューション市場調査結果を発表

～介護ICT市場は2012年から2017年までのCAGR(年平均成長率)成長率は約16%。2017年には約900億円まで拡大すると見込み～

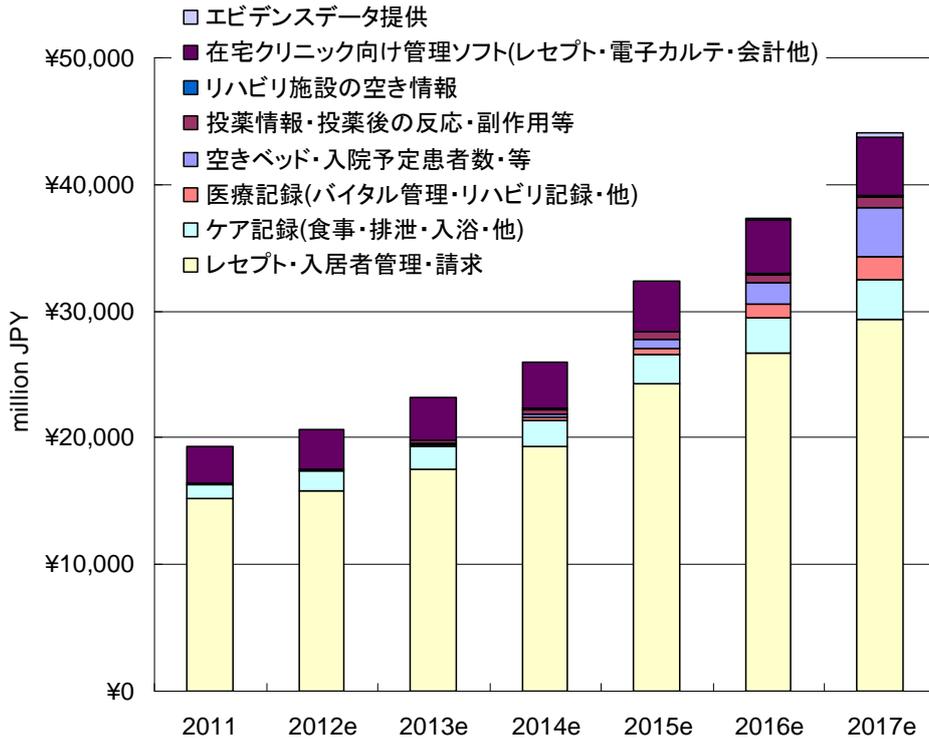
株式会社 テクノ・システム・リサーチは、在宅医療・介護支援ソリューション市場調査の調査分析結果を発表しました。

介護支援・健康管理・在宅医療市場はInternetの普及とハードウェアの利便性向上と共に拡大が期待されている市場である。当レポートでは特に日本市場における「介護ICT」にフォーカスして市場予測を行った。調査の結果、介護ICT市場は2012年現在の410億円から2017年約900億円へと成長する。



介護ICT市場をチャンネル毎に分けると、既存市場が最も大きいのは介護請求・施設管理全般・ケアマネジメントといった介護事業所の主業務向けソフトウェアが中心のB2Bセグメントが最も大きなマーケットを形成している。

B2Bサービス

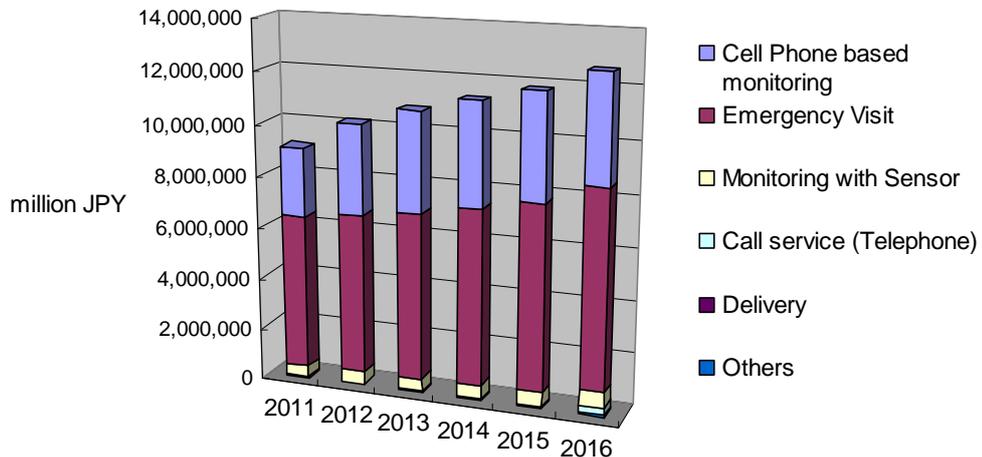


成長率ではB2B2Cセグメントが最も大きく、CAGRは20%、市場規模は2012年の現在の約82億円から約240億円まで成長する。中でも従来から存在する最大市場は有床の介護施設・医療機関への見守りシステム市場である。現在施設や医療機関に導入されている見守りシステムから徐々に高機能化し、介護・医療従事者の業務効率を高め、同時にサービス享受者の満足度も高めるツールとなる事が期待されている。

一方、B2Cセグメントは家庭における必要性・利便性へのニーズに合わせ、長期的に大きく成長し、2017年には現在の約96億円から約220億円まで達する。中でも見守りシステムと服薬管理システムが二大サービスとして導入されていく。

見守りシステムは従来まで導入されていた製品・サービスに加え、採用技術やノウハウの進歩により更に客観的にモニタリングできるシステムが今後増える。

見守りサービス 国内 市場規模



また、服薬システムについては実はニーズが非常に高い。高齢者の服薬は難しく、服薬した事実の確認が不確実であったりと、指示通りに服用できないケースが多い。その為、ICT・エレクトロニクス技術を応用した服薬システムがこの問題を解決できるのではないかと、興味を持つベンダが多く存在している。

介護分野において大きな市場として期待されている、自立・介護支援・コミュニケーションロボットは全くの新規市場であり、技術的ハードルの高さもさることながら、臨床データの蓄積に時間がかかる事もあり、市場拡大は長期的なものと予測する。

在宅医療の分野ではモバイルタイプの超音波診断機器の新モデルが増えている。東日本大震災発生後、被災地の医療現場において、専門医に画像を転送する用途で威力を発揮し、緊急・災害時におけるモバイル診断機器の有効性が実証された形となった。

特に日本における超音波診断機器は緊急用のみでなく、医師が診察室で聴診器代わりに使用するケースが増加しており、近年需要が拡大している。今後、ハンディなモバイル超音波診断機器市場は益々拡大していくと見込まれる。

【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

第2グループ 高相 緑 (takaso@t-s-r.co.jp) 藤田 光貴 (mi.fujita@t-s-r.co.jp)

Tel: 03-3866-4505